



酒類総合研究所「酒類醸造微生物の受託保存」のご紹介

山田 修

独立行政法人酒類総合研究所では、都道府県工業技術センター、酒造組合および酒類製造業者などが所有する麹菌や酵母などの酒類醸造微生物リソースの災害などによる亡失を防止することを目的として、醸造微生物保存（バックアップ）の受託を2015年4月より開始している。同様のサービスは、独立行政法人製品評価技術基盤機構バイオテクノロジーセンター（NBRC）においても「生物遺伝資源バックアップ」として展開されている。そこで、酒類総合研究所では、中小企業の多い酒類製造業者などの利用が容易となるように留意した（表1）。その概要について簡単に紹介する。

目的・対象など

都道府県工業技術センター、酒造組合および酒類製造業者などが所有する麹菌や酵母などの酒類醸造微生物リソースの災害などによる亡失を防止することを目的とする。対象は、グリセロールストックを作成可能なものとし、遺伝子組換え体は含まない。また、海外からの申込みは受け付けていない。

保存方法など

基本的に酒類総合研究所で酒類醸造微生物の培養を行い、グリセロールストックを作成し、 -80°C フリーザーで保存する。培養菌体、麹菌分生子、凍結標品などについても適宜受け入れる。

未定であるが保存場所を国内複数として危険分散を図

ることを予定している。

酒類醸造微生物リソースの公開や分譲はしないが、希望があれば有料で菌株復元を行う。また、依頼に応じ着払いで返還するとともに、酒類醸造微生物リソースを廃棄した場合は、証明書を発行する。

費用・保存期間など

酒類醸造微生物の培養、グリセロールストック作成を行う場合、1回の申込みについて1株1万円とする。ただし、複数株を同時に依頼する場合は、2株目から1株1千円とする。また、酒類製造業者などがグリセロールストック作製を行い、保管のみを依頼する場合は、1株1千円、10本～50本は一律1万円とする。

保存期間は、受託日から2020年度末まで、申込時に費用が発生するが、年度ごとの費用は必要としない。その後は、1社5千円で5年間延長可能とする予定である。

免責事項

予期せぬ理由によってすべての保存場所が被害を受けた場合、受託保存中の微生物を損失することもありえる。

その他

費用はすべて税別である。

酒類醸造微生物受託保存を希望される方は、事前に info@nrib.go.jp までご連絡頂きたい。



表1. 酒類総合研究所とNITE-NBRCの微生物受託保存の比較

	酒類総合研究所 醸造微生物受託保存（バックアップ）	製品評価技術基盤機構（NITE-NBRC） 生物遺伝資源バックアップ
目的	醸造微生物リソースの亡失防止	生物遺伝資源保管に係るコスト・リスクの軽減
対象者	酒類醸造関連の業者、組合、試験指導機関など	企業、公設試、大学、研究機関など
対象	酵母、麹菌など酒類醸造微生物 組換え体は対象外	BSL2以下で感染症法の特定病原体に該当しない微生物、拡散防止措置P2レベルまでの組換え体およびDNA
リソースの形態	適宜（培養菌体、麹菌分生子、凍結標品など）	凍結標品、凍結乾燥標品またはL-乾燥標品
費用	1株1万円（培養、ストック作成、2020年度末まで保管（次期中期計画内）延長可）、2株目から1株1千円 保管のみなら1株1千円（10本～50本は一律1万円）	1件6,000円＋年間保管料10,000円/1箱（max 100本）/年
保存方法	-80°C グリセロールストック	-80°C
保存場所	複数箇所を予定	生物遺伝資源長期保存施設、予算規模：20億円
公開・分譲	行わない	行わない
返還・廃棄	着払い、廃棄証明書発行	着払い、廃棄証明書発行
菌株復元・送付	1株1万円、2株目から1株1千円	不明
海外からの受付	しない	しない
その他	2015年4月開始 予期せぬ理由により損失する場合あり（免責）	申込み開始：2014年8月18日（月）10：00～

【参考】NITE-NBRC微生物L-乾燥アンプル作成費用
基本手数料（アンプル数10本まで）85,000円＋1,500円/本＋送料